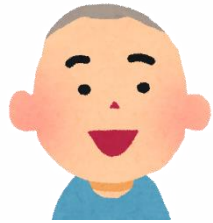


富田林 語りつごう!プロジェクト

「みーんなが買いもんに来てた 堺筋(富田林町)」

今回は富田林町に住む、森さんと石田さんに富田林町のことについてきかせてもらいました。

昔の富田林町にはお肉屋さんや食べ物屋さん、生活に必要な金物屋さんなどたくさんのお店
があったようです。



森さん

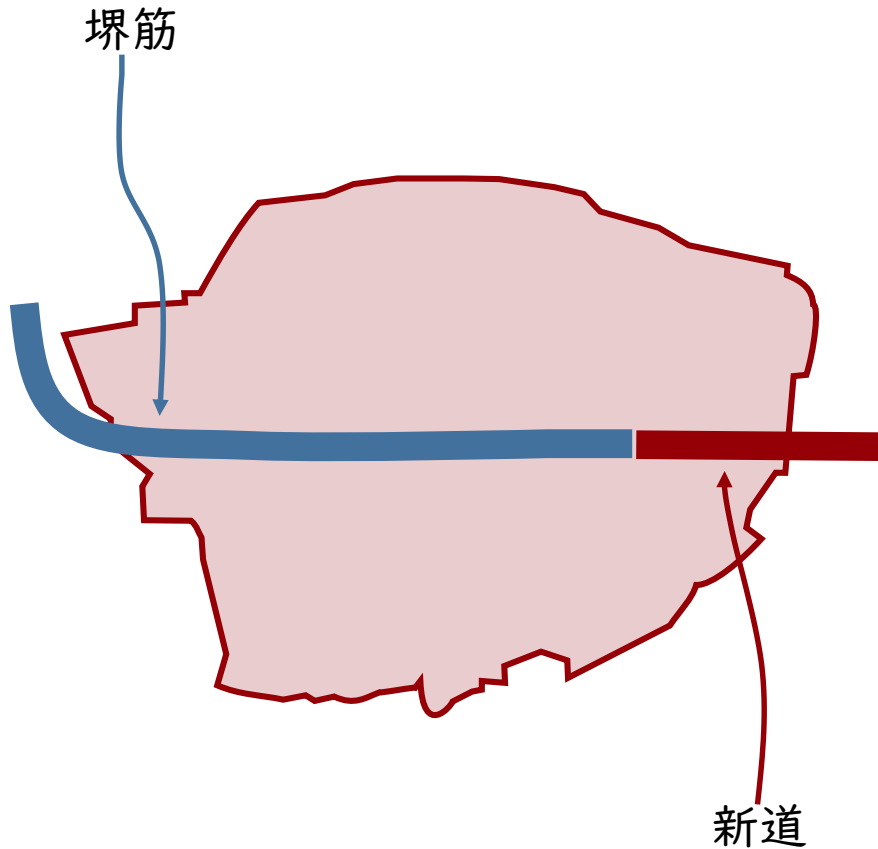
富田林町在住で
市内でご商売を営む



石田さん

富田林町在住で
生家が醤油の醸造をされていた

堺筋のある富田林町



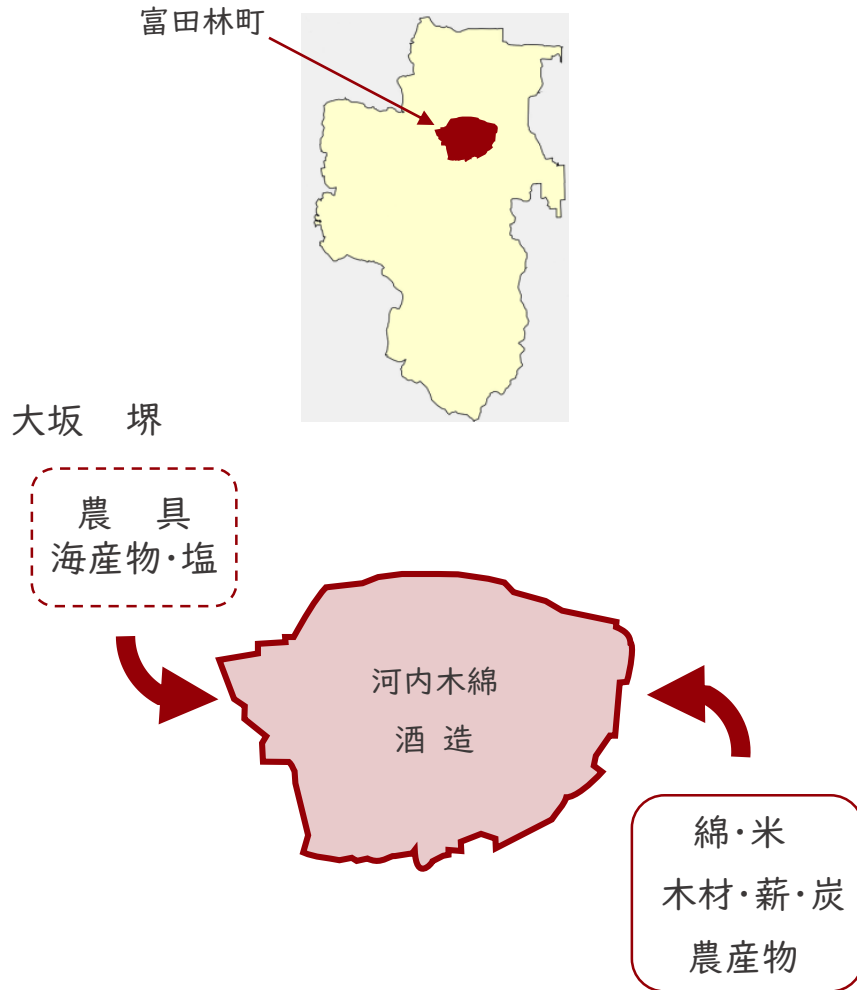
富田林市の富田林町には東西に抜ける一本の長い道があります。

この道は、江戸時代からつづく「堺筋」と呼ばれる道と、のちにできた「新道」がつながったものです。堺筋は堺まで続くことから堺筋と呼ばれたといわれています。

明治時代に新道ができるまでは富田林町の途中で行き止まりになっていましたが、新道ができるからは、一本の道になっています。

堺筋がある富田林町は古くからの街並みが多く残るところです。

堺筋のある富田林町



富田林町は富田林市の中央部にあります。江戸時代には富田林村とよばれていました

戦国時代に興正寺別院を中心とする寺内町としてつくられた富田林村は、江戸時代の前半にはすでに多くの商人や職人が住む町場になっていました。

富田林村には周辺の農村でつくられた作物が持ち込まれました。綿は河内木綿に、米は良質な水を使って酒造業が発展しました。富田林村で加工された物資は堺や大坂といった都市部へと陸送され、都市部からは農具や海産物などが運ばれ周辺農村の経済的中心地として発展しました。

また、富田林村には物資だけではなく、人々も周辺から移り住みました。そして現在の興正寺別院周辺で「御坊」と呼ばれる所から住居などの建物が建てられていったようです。

富田林村は農家が作った作物や、農家が必要とする商品を取りあつかう場である在郷町として発展しました。

在郷町は、都市と農村の経済をつなぐ場であり、両方の文化を含む場でした。

江戸時代から明治期の頃の様子

江戸時代には富田林村にある山中田坂は人々にとって、物資を運び、人が行き交う非常に重要な道でした。

山中田坂を下った所には橋があり、石川の東の村々で作られた綿や米、木材や燃料となる薪(たきぎ)や炭はこの橋を渡し、山中田坂を上って富田林村に運ばれてきました。

明治16年、この橋が大水のため流され、仮の橋を架けましたが、荷車がひっくり返ったり立ち往生したり、けがをする人も少なくありませんでした。

翌年には、同じ場所に完成した新しい橋の渡り初めが行われ、打ち上げ花火や餅まきで橋の開通を盛大に祝ったそうです。

ところが明治30年、今度は現在の金剛大橋の場所に橋が架け替えられることになりました。



(現在の山中田坂の様子)

主な出来事

明治16年(1883)

- ・1月、郡役所が古市から移転
- ・2月、警察署が古市から移転

明治17年(1884)

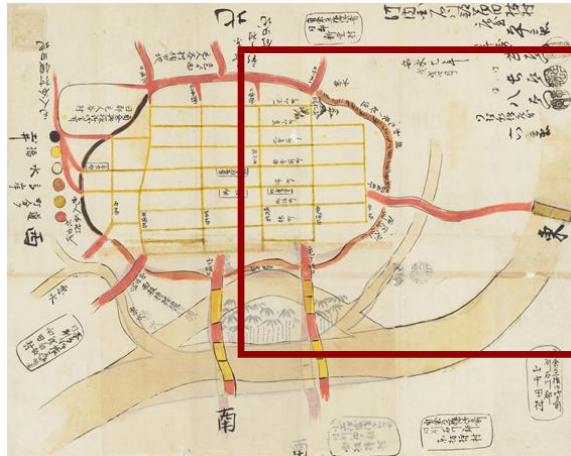
- ・5月、富田林警察署新庁舎完成
(現在の富田林保育園の場所)

明治18年(1889)

- ・11月、郡役所新庁舎完成

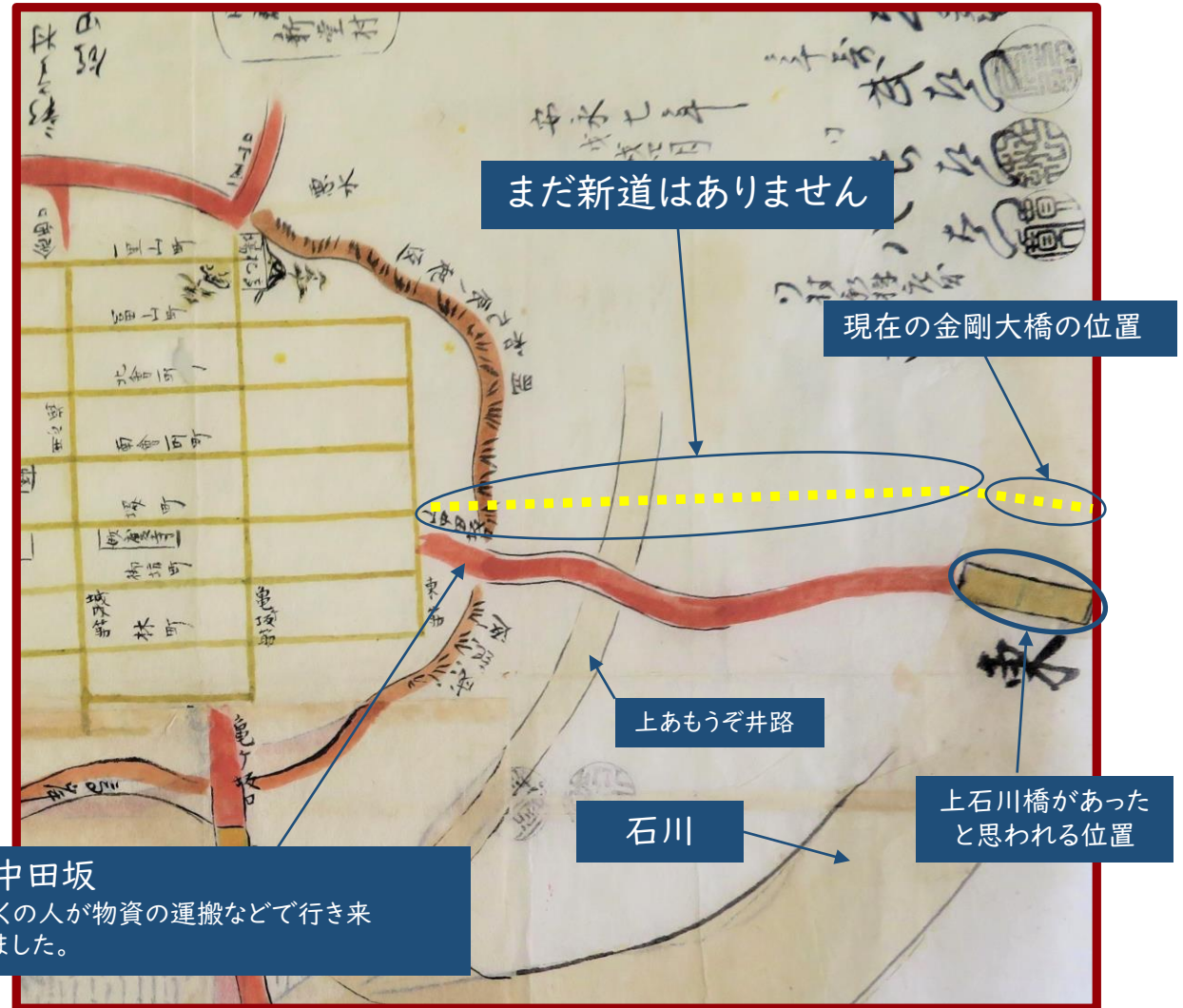
江戸時代から明治期の頃の様子

拡大図



安永7年富田林村絵図

山中田坂
多くの人が物資の運搬などで行き来しました。



新しい道「新道」が完成

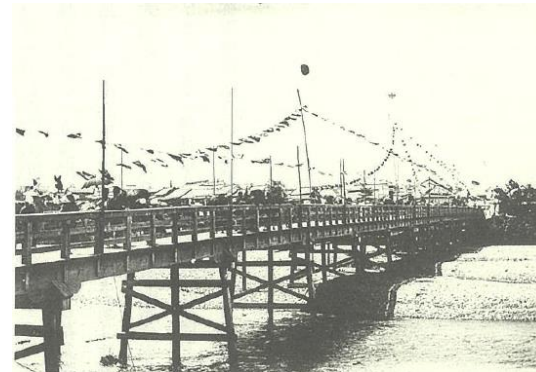
明治時代になると山中田坂の役割はますます大きくなりましたが、狭くて急な坂道ではとても不便でした。

そこで、当時は行き止まりになっていた堺筋の東の端を石川の堤防までまっすぐ延長して新道を設置し、それにあわせて、橋も新道を下りた所に架け替えることになったのです。

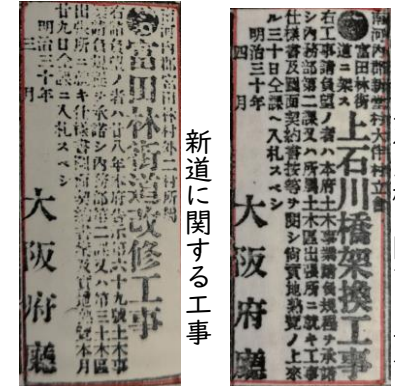
「新道」が完成すると人の流れは山中田坂から新道へと変わり、堺筋にはより多くの人が入ってくるようになりました。

新道沿いには、たくさんの商店が店を構えるようになりました。

改修工事を終え、満艦飾でにぎわう石川橋
(大正期)



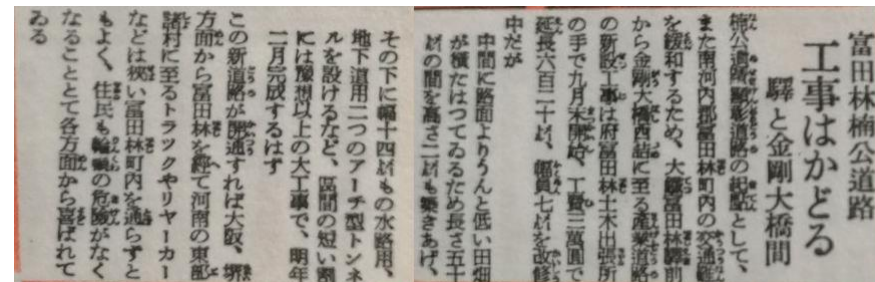
工事の入札を伝える広告(大阪府)
明治30年



新道に関する工事

上石川橋に関する工事

楠公道路の工事の状況を伝える新聞(大阪朝日新聞 昭和14年)

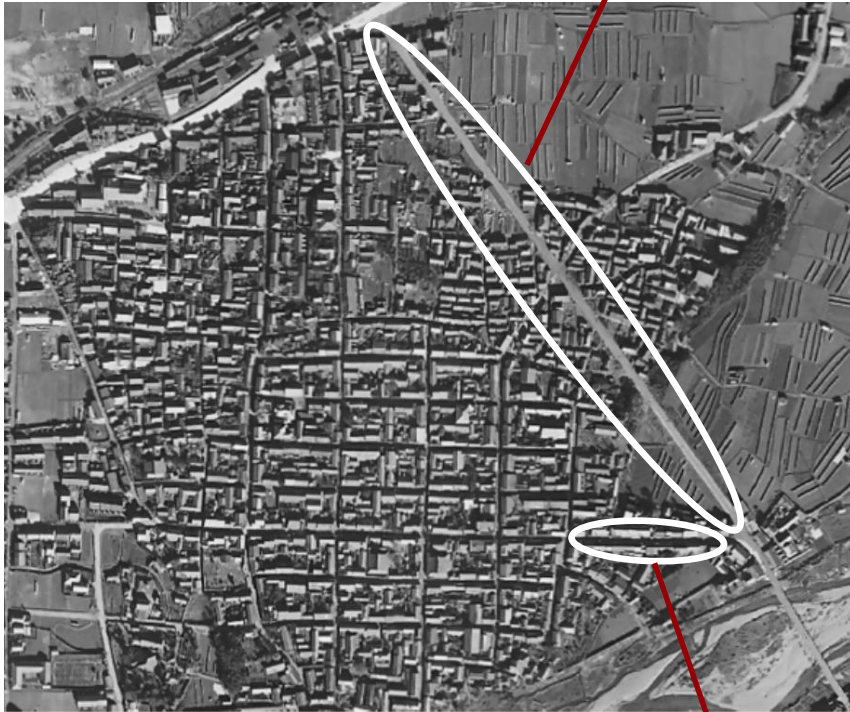


主な出来事

- ・「新道」の完成(明治30年)
- ・上石川橋の架け替え工事(明治30年)
- ・楠公道路の完成(昭和15年)

新しい道「新道」が完成

楠公道路
(昭和15年)



昭和17年航空写真(マップナビおおさか)

「新道」

鉄道

明治31年(河陽鉄道)

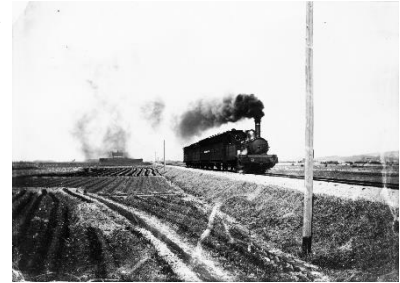
柏原—富田林間の鉄道が開通。このときはまだ汽車(蒸気機関車)でした。

明治35年(河南鉄道)

富田林から長野まで延長されました。

大正12年(大阪鉄道)

天王寺—長野間が開通。汽車から電車に変わりました。



河南鉄道蒸気機関車

バス

金剛バスを運営する金剛自動車の歴史は古く、大正13年頃には富田林町を中心に冠婚葬祭急用に利用されるハイヤーを運行していました。

昭和12年には「金剛自動車株式会社」として、法人化されバスの路線を拡大していきました。



(金剛大橋を走る金剛バスの様子)

昭和30年頃の様子

昭和31年には当時最新式のコンクリート橋である金剛大橋が開通し以前にもまして交通路が充実してきました。

富田林町の新道から堺筋にかけては多くの商店が並び、昭和30年の市の資料では少なくとも60軒以上の商店がありました。

富田林町には2つの商店街があったほか、富田林西口駅周辺や富田林駅前から富田林町にかけても商店街がありました



金剛大橋の完成を伝える広報（昭和32年1月）



昭和35年頃の堺筋商店街の写真

主な出来事

- ・堺筋商店街協同組合（昭和28年）
- ・金剛大橋の開通（昭和31年）

昭和30年頃の様子

衣食住

昭和30年頃の寺内町には200以上のお店がありました。

食料品

37

お米・お酒・牛肉
かしわ肉・お魚・野菜
果物・豆腐・油揚げ
牛乳・茶・天ぷら・乾物

織物・衣服

22

呉服・反物・肌着
洋服・子供服・帽子
糸・ボタン

生活用品

38

たばこ・種・仏具・時計
傘・桶・ふすま・家具・
薪炭・石油・電気器具

お医者さん

15

内科・小児科・産婦人科
・眼科・耳鼻科・歯科
・産婆

薬局・化粧品

10

菓子・パン

15

飲食店

13

写真館
2

理髪
パーマ
7

文房具
4

自転車
4

クリーニング
5

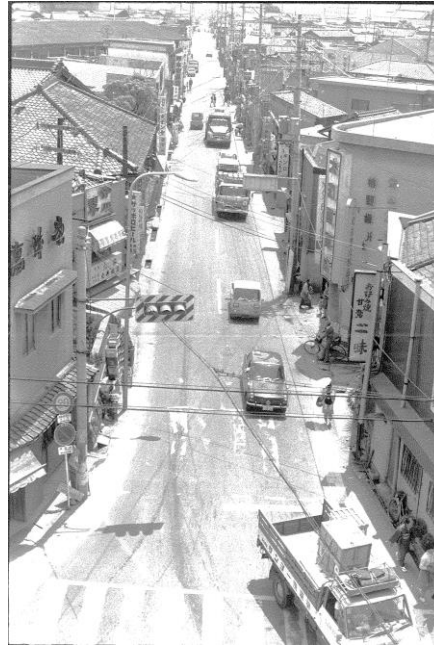
旅館
3

荒物・金物
13

高度経済成長の頃



昭和35年頃の楠公道路



昭和30年頃から始まる高度経済成長期も時代が進むにつれて、自動車の普及により生活様式や人の流れも変わるようになりました。

石川の金剛大橋から富田林駅前に続く、楠公道路が整備されてからは富田林町から店舗は駅周辺へ店舗が移動していきました。

富田林町のにぎわいは駅前通りや楠公通り等大きな道路沿いに移ってしまいましたが、富田林町は、当時の街並みをのこし、世代や店主などが変わりながら、今もお営まれているお店があります。

昭和30年頃の富田林町にタイムスリップして、
中学生の森くんと石田くんに寺内町の様子をきいてみたよ!

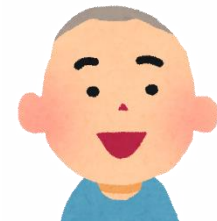
富田林町ってどんなところだったの??

富田林町の近くの石川には、かつて船着き場があったらしいよ。
そこまで、船で荷物を運んだんだって。

昔は大きな道がなかったので、上りの急な「山中田坂」を登って寺内
町にきていたらしいよ。

富田林町はどんな様子だったのかな??

「新道」という新しい道ができて、新道から堺筋にかけてたくさん
のお店でにぎわっていたよ。
服や毛糸、味噌にお菓子、お肉、それからおもちゃや文具、生活に
必要なものがここに来るとそろっていたんだよ



森くん

富田林町まではみんなどうやって来ているのかな??



みんな歩いたり、自転車に乗ったりして来ていたよ。
石川にかかった橋を渡って川向や山中田、大伴、今の河南町からも来ていたんだ。遠くでは古市や松原からも自転車に乗って来ていたんだよ!

他に富田林町で印象に残ることはあるかな??

水が多く湧いていたよ。井戸もたくさんあって、お酒やお醤油をつくる時に貯水槽に水を貯めて、ビンの洗い場として利用していたよ。



石田くん

森さんの伝えたいこと

現在の富田林市の街は寺内町ができ、道路ができ、鉄道ができ、どんどん変遷して、今の形があるということを記憶にとどめもらえたらうれしいです。

寺内町も当初は御坊町というお寺周辺のところからだんだん街が大きくなっていったと思います。昭和25年～30年頃には堺筋や新道にはたくさんのお店が並び、今の太子町や河南町、堺市美原区からたくさんの人がリヤカーやカタビキで買い物に来ていました。

石田さんの伝えたいこと

子どものころはカンケリやかくれんぼ鬼ごっこをして遊びました。石川の河川敷でラジオ体操をして終わったら、川遊びもしました。小学校の運動会では町会対抗のリレーがあり負けれないので家の近くの通りでバトンパスの練習をしました。

子どもの頃の思い出は、不思議なことに鮮明に覚えています。

車の通行が多くなったり、石川も昔のように安全に遊べなくなったりして、外で遊びにくくなっていると思いますが、今の遊びで大切な思い出をつくって欲しいです